

喉頭直達鏡下ポリープ切除術後の沈黙療法を守る為の援助 術前オリエンテーションの統一と発声を誘発しない援助法の有効性

中 4 病棟 近藤純香 宮石教子 小濱協子
天下井照子 千田美穂子 築地香奈恵

key word : 沈黙療法、術前オリエンテーション、沈黙を知らせるカード

【目的】

声帯ポリープ切除術を受けた患者様の中には沈黙療法（以下沈黙とする）を守れず会話してしまったり、医師や看護師の声掛けに対して発語してしまう患者様がいる。術前オリエンテーションが不十分な事が原因であると考え、術前オリエンテーションの統一と、発声を誘発しない援助を工夫する事が必要と考えた。

【方法】

パンフレット、沈黙中を知らせるシートの作成をし、術前オリエンテーションの統一を図った。

【結果】

沈黙の意味は全員理解されていたが半数がストレスを感じており、上手なコミュニケーションを取れなかったこと、面会人等と話ができないことが理由に上げられた。沈黙を守れなかった回答者が2名いたが、話しかけられた事への反射的な返事をした事だけだった。

【考察】

アンケート結果として、沈黙に対する理解が得られず発語した人はいなかったため、パンフレットは有効と考える。沈黙中を知らせるシートに関しては周囲の理解も得られ、有効な面もあったが、声掛けに対する反射的な発声は否めなかった。医師、看護師等の問いかけに対しての発語を防止するため、質問カードの作成も有効ではないかと考えている。アンケートによって、沈黙がストレスだが守れた人、ストレスではないが、つい発語した人等、様々な意見のあることが、わかった。また沈黙中のコミュニケーションの一つとして筆談もあるが、筆談でのコミュニケーションを好まない人もいとわかり、術前オリエンテーションで個々の患者様に合ったコミュニケーション手段を考える必要があると思われる。